

ささやきボイスシリーズ5

シチュエーション：出張先でおどおど後輩彼女とドキ☆ドキ☆添い寝（日常）

キャラ設定

佐山あかね（22）

会社社員2年目

◎外見

身長：150センチ

体重：上記身長でやや痩せているに近い標準の体重。

バスト：Cカップ

手入れの行き届いた綺麗なロングヘア。

自分にあまり自信がないせいで前の毛が少し顔に掛かる。

おどおどしがち。

ただし意思をしっかりと示すことが出来る。

◎家族構成

父、母、姉（25）、あかね

父親は地方公務員で市役所勤務。

母親は専業主婦。

姉はテーマパークの運営会社で企画部。

◎性格・人物

活発な姉にいつも後ろから付いてくるような妹で、いつも自信なさ気にしている。

しかし本人こそ自信がなく発言がおどおどしたり、はっきり物事が言えないが物事の本質を見抜く力は鋭い。

基本誰にでも優しい。はっきり物事が言えないが嫌なものは嫌だとしっかりと拒否は出来る。

◎特技・エピソード

小学校はいじめられ体质だったが、嫌だと言う拒否だけは明確に示し、自分の納得の行かない事はやらない事から最終的にはいじめっ子が興味を失う。

中学校、高校とおどおどした性格こそ変わらないが、控えめながらも発言する事が周りから注目を集めていつの間にかご意見番になる。

現在、入った会社の営業部営業支援室で先輩とコンビを組んでいる。

実は新人研修時に控えめながら的を得た意見が言えるあかねの鋭さが買われた。

おどおどしながらもしっかりと意見を伝えるあかねに先輩が惚れて現在は先輩兼上司兼彼氏になっている。

◎将来の夢

先輩とずっと一緒にいられること。

◎主人公（先輩）への思い

初めて自分をちゃんと見て更に好きだと言ってくれたことにとても嬉しく感じている。

今まで自分に意見を求めてくれる人はいても恋愛対象に見られたことがなかったことから自分を好きになってくれた先輩に尽くす。

付き合い始めてから料理をするようになり、最近はおかし作りにも挑戦。

前年のバレンタインで手作りが出来なかったことから次こそはトリベンジに静かに燃えている。

—プロット—

<チャプター1:後輩と分析会>

新規開拓の営業先で初見では一先ず資料を渡すことが出来た二人。

しかし競合がすでに入り込んでいることからそこを切り崩すための打ち合せを出張先のホテルで行う。

ところが先輩が眠くなったと言い出した。

<チャプター2：後輩と添い寝>

最近、控えめながらも積極的になって来たあかねが、先輩にささやきと耳への吹きかけを勉強していてやってあげることに。

一台本一

※隣にいるような距離感で。

「先輩、今度のところですが一筋縄には行きそうもないですね」

「ええ。何かしらの対策を立てないと...」

「アイディアですか？うーん、ライバル社との差が出せないとどうにもならないですね？」

「現段階で分かってることじゃ、対策の立てようもないです」

「先輩はどうですか？」

「ライバル社より2割安く、もしくはオプションを安く提供ですか...」

「確かに、今すぐ出来る事としたらそんなところですよね」

「え？眠いから良いアイディアが出ないですか？」

「もう、子供みたいなこと言わないで下さいよ」

「あ、ベッドに寝ちゃったら本当に寝ちゃいますよ！」

「先輩！起きてください！」

「え？耳にささやきながら対策を言ってくれですか？」

「そうじゃないと寝ちゃうって...」

「わ、分かりました！じゃ、じゃあ行きますよ？」

※↓耳元でささやく（無音）ようにお願いします。

「えっと、まず確認ですがヒアリングに時間は掛けられますか？」

「時間は掛けられるんですね。では週に1回は訪問して何か問題がないか聞きましょう」

「はい。そうです。同じ商品がダメなら他のもので勝負しましょう」

「少しでいいんでも利用してもらえる商品を提案して、まずは入り込みます」

「そこからは少しづつ問題解決できる提案をしていって、頃合いを見計らって勝負に出ましょう」

「あ、はい。上手く行けば外堀を埋めて本丸が落とせるかも知れません」

「それに失敗してもこれなら痛手は最小限で済みますよ」

「なぜか？ですか？はい、他の商品が売れれば少なくともパイプは出来ますし、長く付き合う上でライバル社への愚痴も聞ける可能性もあります」

「ライバル社の商品の穴がわかればうちの商品の改良にも繋がります」

「結果、この会社がダメでも他の会社へのアプローチ強化が出来ますから」

「え？わたしの意見を採用って.....。そんなあっさり良いんですか？」

「出来ることはわたしが言ったことが全部ですか.....」

※↓一旦ささやきを解除。

「きゃっ！？先輩、いきなり抱きしめて来るなんて反則ですよー」

「え？今日は仕事に疲れたからわたしに甘えたいんですか？」

「もう仕方のない先輩ですね？」

「でも、出張先のホテルの部屋をダブルベッドにしてる時点で甘えるつもりだと思ってました」

「嫌だったか、ですか？ふふふ、大丈夫ですよ」

※↓ささやき（無音）

「先輩の事なんてお見通しですかね？」

「さっそく耳に息を吹き掛けて上げますね」

※約1分間いろんなバリエーションで吹き掛け。

「もう顔がとろーんとしますね？じゃあ次は反対側です」

「行きますね？」

※ここは上の吹き掛けを使いまわすので吹き掛けはオッケーです。

「気持ちいいですか？」

「それは良かったです」

「え？好きって言って欲しいですか？ふふふ、いいですよ」

※ここから好きをバリエーション変えながら約2分間囁いてください。

「先輩、顔が真っ赤ですね。可愛いです」

「可愛いって言われても嬉しくありませんか？男の人ですもんね」

「眠くなって来たから寝るんですか？」

「じゃあ、わたしも一緒に寝ちゃいます」

「先輩、腕枕してくれませんか？」

「ありがとうございます」

「先輩、大好きです」